医療関係者用

3mL製剤用 ボカブリア水懸筋注600mgおよびリカムビス®水懸筋注900mgの注射の準備および投与方法

VOCABRIA ボカブリア水懸筋注 ＋ REKAMBYS® リカムビス水懸筋注

ボカブリア+リカムビス®の投与の概要

- 各来院毎に、ボカブリア水懸筋注600mgおよびリカムビス®水懸筋注900mgの両剤の注射が必要です。
- ボカブリア水懸筋注600mgおよびリカムビス®水懸筋注900mgは懸濁液であり、さらなる希釈や溶解は不要です。
- ボカブリア水懸筋注600mgは室温で保存、リカムビス®水懸筋注900mgは2～8℃の冷蔵庫で保存してください。
- 両剤の調製手順は同一です。
- **ボカブリア水懸筋注600mgおよびリカムビス®水懸筋注900mgは筋肉内注射のみに使用してください。**
- 腹側臀部への投与が推奨されます。
- **静脈内に投与しないでください。**
- 投与順序は問いません。

注射に必要な準備物

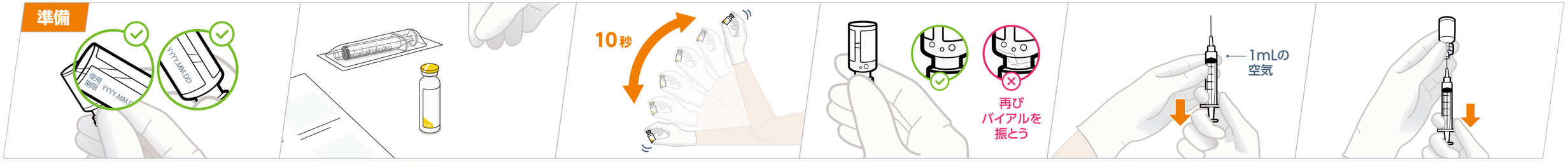
（ボカブリア水懸筋注600mgおよびリカムビス®水懸筋注900mgの包装には含まれていません）

- シリンジ（5mL、用意出来る場合にはルアーロック） 2本
- 注射針（懸濁液吸引用、用意出来る場合にはルアーロック） 2本
- 21～23ゲージの注射針（用意出来る場合にはルアーロック、セーフティニードル） 2本
- 手袋（非滅菌可）
- アルコール綿 4枚
- ガーゼパッド 4枚
- 医療用廃棄物回収容器

BMIが大きい患者さんにおける注意点

- 注射針の長さは、BMIを考慮し、臀部の筋肉に到達するものを用いてください。

準備



1. 両方のバイアルを確認します

- 使用期限が過ぎていないことを確認します。
- バイアルを目視により確認します。異物が見える場合は使用しないでください。

注：ボカブリアのバイアルの色調は褐色です。

2. リカムビス®のバイアルを常温（25℃以下）に戻します

- リカムビス®のバイアルを冷蔵庫から取り出し、常温（25℃以下）になるように、少なくとも15分間待ちます。

注：ボカブリアのバイアルを冷蔵庫で保存していた場合は、少なくとも15分間室温に置きます。

3. しっかりと振とうします

- バイアルをしっかりと持ち、図のように約10秒間しっかりと振とうします。
- バイアルを逆さにして、均一に懸濁されたことを確認します。

4. 均一に懸濁されたことを確認します

- 均一でない場合、再びバイアルを振とうします。
- 小さな気泡が見えることがありますが、問題ありません。
- バイアルのキャップをはずします。
- ゴム栓をアルコール綿で清拭し、十分に乾燥させます。

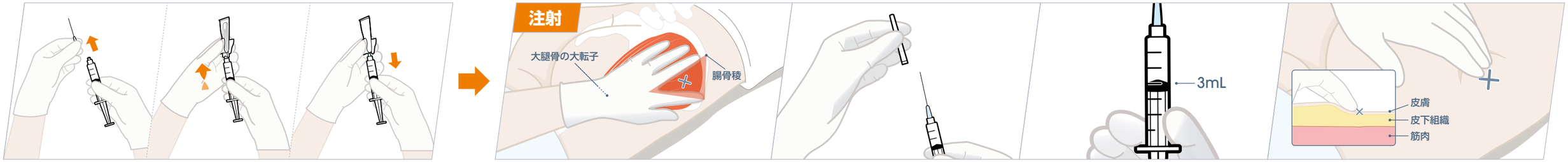
5. シリンジと注射針を準備します

- シリンジに、吸引用注射針を取り付けます。
- 1mL分の空気をシリンジに吸引します。
- バイアルを平らな面に置いた状態で、吸引用注射針でゴム栓に穴を開けます。プランジャーを完全に押し下げて空気をバイアルに押し込みます。

6. 薬液をゆっくり吸引します

- シリンジとバイアルを反転させ、ゆっくりと、できるだけ多くの薬液をシリンジに吸引します。投与量よりも多くの液量が取れることがあります。
- 薬液を完全に吸引した後、薬液がバイアルに逆流しないように、プランジャーを適切な位置で保持し続けます。

注：懸濁液が均一になっていることを再度確認します。



7. 投与用注射針を取り付けます

- 吸引用注射針を抜きます。
- 投与用注射針の包装部を開封して針基を露出させます。
- シリンジをまっすぐに立てたまま投与用注射針にしっかりとねじ込みます。
- 最後に包装から針を取り出します。

8. 注射部位を確認します

- 注射は臀部に投与しなければなりません。
- 以下の注射部位から選択してください：
  - **腹側臀部（推奨）**
  - 背側臀部（臀部の上外側4分の1の領域）

注：臀部筋肉内にのみ使用してください。**静脈内に注射しないでください。**

9. 注射針のキャップを引き抜きます

- 注射針のキャップを引き抜きます。

10. 余分な薬液を除きます

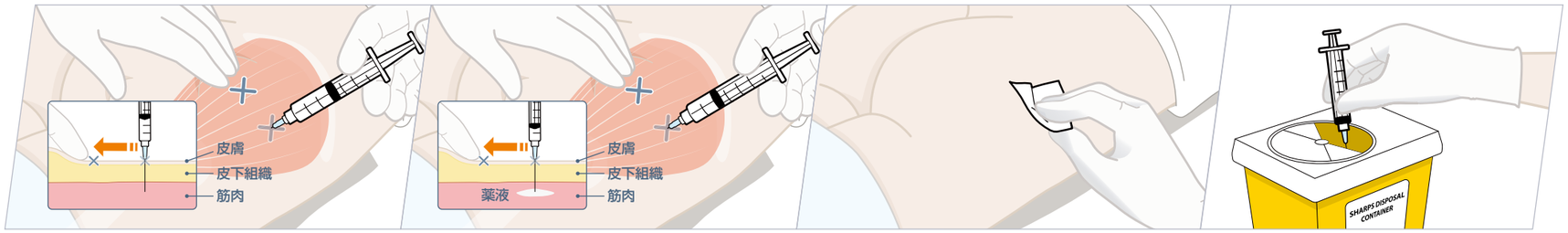
- 注射針を上に向けて、シリンジを保持します。
- プランジャーを投与量である3mLまで押して余分な液体や気泡を取り除きます。

注：注射部位をアルコール綿で清拭し、皮膚を十分に乾燥させます。

11. 皮膚を伸ばします

- 注射部位での薬液の漏出を最小限に抑えるため、Z-track法を用いて投与します。
- 皮膚を注射部位から一定方向に約2.5cm強く引いて保持します。

注：血管に投与しないように注意します。



12. 針を刺入します

- 針を筋肉に達するまで深く刺入します。

13. 薬液を注入します

- 皮膚を伸ばしたまま、プランジャーをゆっくり押し切ります。
- シリンジが空になっていることを確認します。
- 針を抜き、速やかに引いていた皮膚を戻します。

14. 注射部位を確認します

- ガーゼパッドの上から注射部位を押さえます。
- 少量の出血や薬液が認められる場合は、ガーゼパッドでしばらく押さえておき、小さな絆創膏を使用してください。

注：注射部位を揉まないでください。

15. 使用したものを安全に廃棄します

- 使用済みのシリンジ、バイアルおよび注射針を廃棄します。

注：地域の廃棄方法に従って廃棄してください。

2 2剤目の注射でもすべての手順を繰り返します。投与順序は問いません。2剤目の注射は、臀部の左右異なる側または片側の臀部で2cm以上間隔をあけて注射します。

投与にあたっては、ボカブリア水懸筋注600mgおよびリカムビス®水懸筋注900mgの包装に含まれる各薬剤の取扱説明書もご参照ください。

弊社Webサイト「ViiV Exchange」に「ボカブリア+リカムビス®使用説明動画」を掲載しています
https://jp.viivexchange.com/our-medicines/vocabria-rekambys/

リカムビス®（リルピビリン持効性懸濁注射液）およびリカムビス™はヤンセンファーマ株式会社の登録商標であり、ヴィーブヘルスケア株式会社が許可を受け使用しています。そのほかの登録商標はヴィーブヘルスケア株式会社が所有しています。
©2020 ViiV Healthcare group of companies or its licensor.

ボカブリア水懸筋注

製造販売元
ヴィーブヘルスケア株式会社
〒107-0052 東京都港区赤坂1-8-1

販売元
グラクソ・スミスクライン株式会社
〒107-0052 東京都港区赤坂1-8-1

プロモーション提携
シオノギ製薬
大阪市中央区道修町3-1-8

【文献請求先及び問い合わせ先】 ヴィーブヘルスケア・カスタマー・サービス
TEL：0120-066-525（9：00～17：45／土日祝日及び当社休業日を除く）
FAX：0120-128-525（24時間受付）

VRPMPSTR220001-D2205N
VR-V-0002（V01）
作成年月2022年5月

医療関係者用

2mL 製剤用 ボカブリア水懸筋注400mgおよびリカムビス®水懸筋注600mgの注射の準備および投与方法

VOCABRIA ボカブリア水懸筋注 + REKAMBYS® リカムビス水懸筋注

ボカブリア+リカムビス®の投与の概要

- 各来院毎に、ボカブリア水懸筋注400mgおよびリカムビス®水懸筋注600mgの両剤の注射が必要です。
- ボカブリア水懸筋注400mgおよびリカムビス®水懸筋注600mgは懸濁液であり、さらなる希釈や溶解は不要です。
- ボカブリア水懸筋注400mgは室温で保存、リカムビス®水懸筋注600mgは2～8℃の冷蔵庫で保存してください。
- 両剤の調製手順は同一です。
- **ボカブリア水懸筋注400mgおよびリカムビス®水懸筋注600mgは筋肉内注射のみに使用してください。**
- 腹側臀部への投与が推奨されます。
- **静脈内に投与しないでください。**
- 投与順序は問いません。

注射に必要な準備物

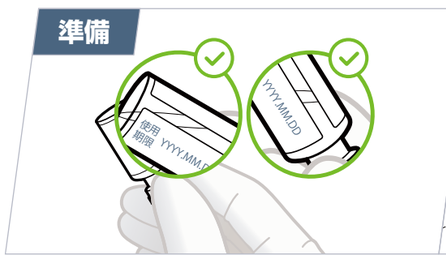
（ボカブリア水懸筋注400mgおよびリカムビス®水懸筋注600mgの包装には含まれていません）

- シリンジ（5mL、用意出来る場合にはルアーロック） 2本
- 注射針（懸濁液吸引用、用意出来る場合にはルアーロック） 2本
- 21～23ゲージの注射針（用意出来る場合にはルアーロック、セーフティニードル） 2本
- 手袋（非滅菌可）
- アルコール綿 4枚
- ガーゼパッド 4枚
- 医療用廃棄物回収容器

BMIが大きい患者さんにおける注意点

- 注射針の長さは、BMIを考慮し、臀部の筋肉に到達するものを用いてください。

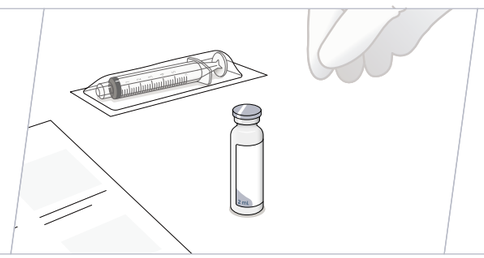
準備



1. 両方のバイアルを確認します

- 使用期限が過ぎていないことを確認します。
- バイアルを目視により確認します。異物が見える場合は使用しないでください。

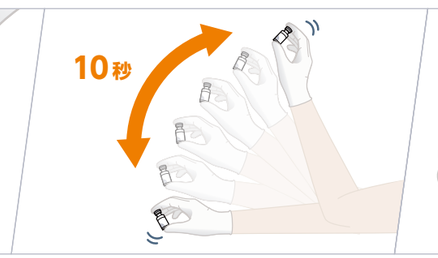
注：ボカブリアのバイアルの色調は褐色です。



2. リカムビス®のバイアルを常温（25℃以下）に戻します

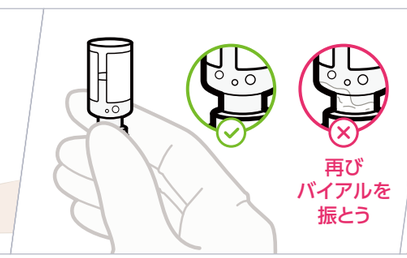
- リカムビス®のバイアルを冷蔵庫から取り出し、常温（25℃以下）になるように、少なくとも15分間待ちます。

注：ボカブリアのバイアルを冷蔵庫で保存していた場合は、少なくとも15分間室温に置きます。



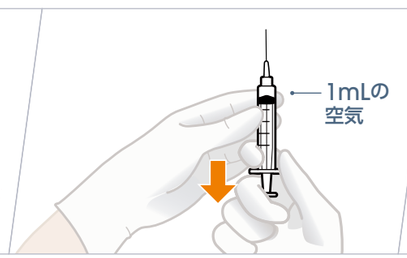
3. しっかりと振とうします

- バイアルをしっかりと持ち、図のように約10秒間しっかりと振とうします。
- バイアルを逆さにして、均一に懸濁されたことを確認します。



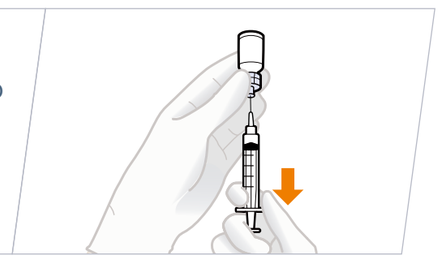
4. 均一に懸濁されたことを確認します

- 均一でない場合、再びバイアルを振とうします。
- 小さな気泡が見えることがありますが、問題ありません。
- バイアルのキャップをはずします。
- ゴム栓をアルコール綿で清拭し、十分に乾燥させます。



5. シリンジと注射針を準備します

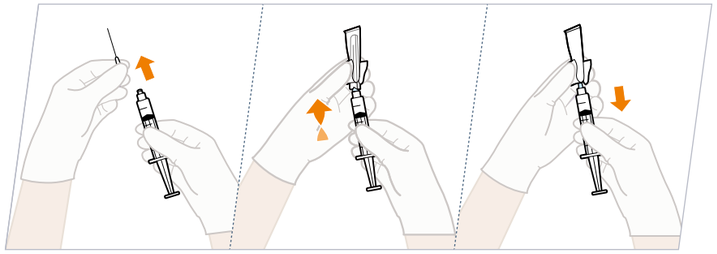
- シリンジに、吸引用注射針を取り付けます。
- 1mL分の空気をシリンジに吸引します。
- バイアルを平らな面に置いた状態で、吸引用注射針でゴム栓に穴を開けます。プランジャーを完全に押し下げて空気をバイアルに押し込みます。



6. 薬液をゆっくり吸引します

- シリンジとバイアルを反転させ、ゆっくりと、できるだけ多くの薬液をシリンジに吸引します。投与量よりも多くの液量が取れることがあります。
- 薬液を完全に吸引した後、薬液がバイアルに逆流しないように、プランジャーを適切な位置で保持し続けます。

注：懸濁液が均一になっていることを再度確認します。



7. 投与用注射針を取り付けます

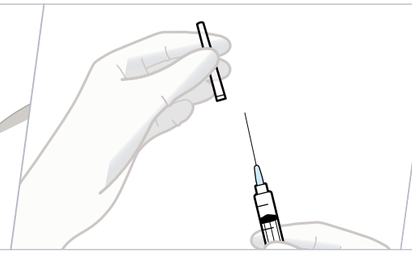
- 吸引用注射針を抜きます。
- 投与用注射針の包装部を開封して針基を露出させます。
- シリンジをまっすぐに立てたまま投与用注射針にしっかりとねじ込みます。
- 最後に包装から針を取り出します。

注射

8. 注射部位を確認します

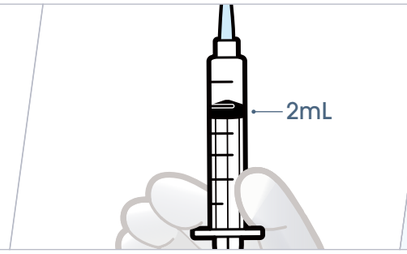
- 注射は臀部に投与しなければなりません。
- 以下の注射部位から選択してください：
  - **腹側臀部（推奨）**
  - 背側臀部（臀部の上外側4分の1の領域）

注：臀部筋肉内にのみ使用してください。**静脈内に注射しないでください。**



9. 注射針のキャップを引き抜きます

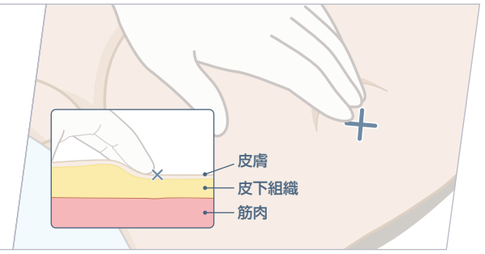
- 注射針のキャップを引き抜きます。



10. 余分な薬液を除きます

- 注射針を上に向けて、シリンジを保持します。
- プランジャーを投与量である2mLまで押して余分な液体や気泡を取り除きます。

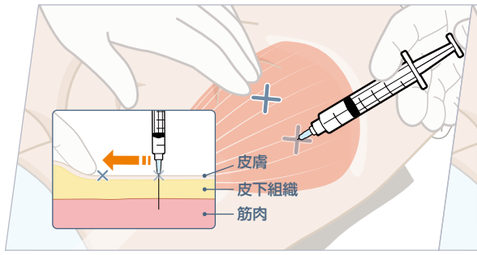
注：注射部位をアルコール綿で清拭し、皮膚を十分に乾燥させます。



11. 皮膚を伸ばします

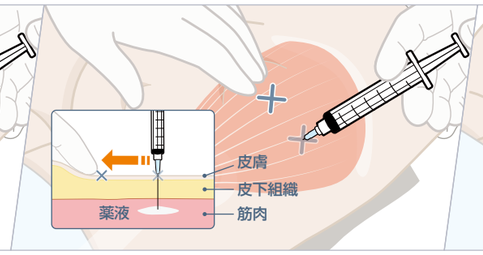
- 注射部位での薬液の漏出を最小限に抑えるため、Z-track法を用いて投与します。
- 皮膚を注射部位から一定方向に約2.5cm強く引いて保持します。

注：血管に投与しないように注意します。



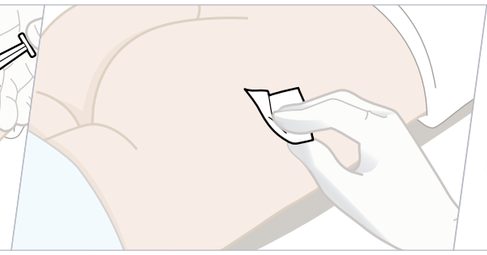
12. 針を刺入します

- 針を筋肉に達するまで深く刺入します。



13. 薬液を注入します

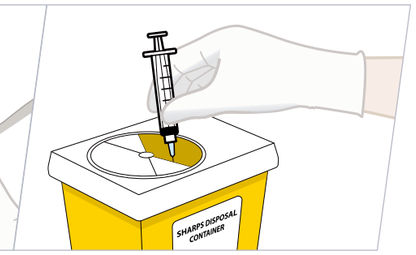
- 皮膚を伸ばしたまま、プランジャーをゆっくり押し切ります。
- シリンジが空になっていることを確認します。
- 針を抜き、速やかに引いていた皮膚を戻します。



14. 注射部位を確認します

- ガーゼパッドの上から注射部位を押さえます。
- 少量の出血や薬液が認められる場合は、ガーゼパッドでしばらく押さえておき、小さな絆創膏を使用してください。

注：注射部位を揉まないでください。



15. 使用したものを安全に廃棄します

- 使用済みのシリンジ、バイアルおよび注射針を廃棄します。

注：地域の廃棄方法に従って廃棄してください。

2剤目の注射でもすべての手順を繰り返します。
投与順序は問いません。
2剤目の注射は、臀部の左右異なる側または片側の臀部で2cm以上間隔をあけて注射します。

投与にあたっては、ボカブリア水懸筋注400mgおよびリカムビス®水懸筋注600mgの包装に含まれる各薬剤の取扱説明書もご参照ください。

弊社Webサイト「ViiV Exchange」に「ボカブリア+リカムビス®使用説明動画」を掲載しています
https://jp.viivexchange.com/our-medicines/vocabria-rekambys/

リカムビス® 水懸筋注

janssen

製造販売元
ヤンセンファーマ株式会社
東京都千代田区西神田3-5-2

販売元
グラクソ・スミスクライン株式会社
〒107-0052 東京都港区赤坂1－8－1

提携先
ヴィーブヘルスケア株式会社
〒107-0052 東京都港区赤坂1－8－1

提携先プロモーション提携
シオノギ製薬
大阪市中央区道修町3-1-8

【文献請求先及び問い合わせ先】 <本剤とカボテグラビル注射剤の併用療法に関連したお問い合わせ（カボテグラビルとの併用療法におけるリルピビリン経口剤に関するお問い合わせを含む）>
グラクソ・スミスクライン株式会社
東京都港区赤坂1-8-1
ヴィーブヘルスケア・カスタマー・サービス
TEL：0120-066-525（9:00～17:45／土日祝日及びグラクソ・スミスクライン株式会社休業日を除く）
FAX：0120-128-525（24時間受付）

<併用療法に関連しない本剤に関するお問い合わせ>
ヤンセンファーマ株式会社 メディカルインフォメーションセンター
〒101-0065 東京都千代田区西神田3-5-2
フリーダイヤル 0120-183-275